

編 集 後 記

聴覚障害者のリハビリテーションの特集をお届けする。

本誌が創刊されてから満4年近くになるが、聴覚障害の問題をとりあげるのはこれをはじめである。リハビリテーション、特に教育、職業、社会的な面のそれにおいては、聴覚障害者のリハビリテーションは、肢体不自由のそれよりもむしろ古い歴史をもつ分野でありながら、現代のリハビリテーション医学からはやや離れた分野ということもあってこのように遅くなってしまったのは残念である。しかし、それだけに編集上の貴重なアドバイスをいただき、かつ御執筆をいただいた堀口申作先生をはじめとして、多くの先生方の熱心な御助言がいただけ、大型の特集を組むことができた。船坂氏の医学的側面の詳細な紹介にはじまって、乳幼児における問題(吉野氏、村井氏)、ろう教育(上野氏)、ろ

う者の職業問題(野沢氏、成井氏)、また大きな問題である中途失聴者の問題(関氏、高寺氏)、その他、多面にわたる話題がとりあげられ、問題の大きさと複雑さをあらためて教えられた感がある。特に角田氏の論文では補聴器の装用といった一見きわめて実際的な問題が実は脳の左右の機能分化・分業という神経生理・心理学の最尖端のテーマと結びついていることを教えられ興味深かった。その他、遺伝(大倉氏)、結婚(田中氏)、字幕・手話付きテレビ(河合氏・他)などの論文、それに座談会(岡本氏・他)なども一層この特集を豊かにしていただいたと感謝している。

今回は特集の内容の充実のために残念ながらいくつかの固定欄を削らざるを得なかったことをお詫びしたい。(上田 敏)

次 号 予 告 (第4巻第10号)

特 集 日常生活動作

日常生活動作の概念と評価法の

諸問題……………神奈川リハセンター 安藤徳彦・他

片麻痺者の日常生活動作……………都身障センター 寺山久美子

脳性麻痺の日常生活動作を困

難にさせるもの—その基礎能力をさぐる……………宮城拓桃園 高橋孝文

脊髄損傷の日常生活動作能力……………中伊豆リハセンター 兼松英夫・他

関節可動域と日常生活動作について……………兵庫リハセンター 村田秀雄

日常生活動作とそのための建築空間・設備……………都老人研 陳慧玉

日常生活動作に関するアンケート……………自治医大 大井淑雄・他

講 座 リハビリテーション診断学(8) —主として

姿勢反応に基づく脳性麻痺診察法……………長崎大 亀山富太郎・他

編集顧問

天児民和

大島良雄

小池文英

砂原茂一

津山直一

水野祥太郎

編集委員

明石謙

上田敏

大井淑雄

大川嗣雄

荻島秀男

土屋弘吉

横山巖

編集同人

赤津隆

今田拓

今村哲夫

江口寿栄夫

小野啓郎

河邨文一郎

五味重春

沢村誠志

杉山尚

武智秀夫

永井昌夫

中村隆一

野島元雄

間得之

長谷川恒雄

橋倉一裕

平方義信

福井罔彦

三島博信

渡辺英夫

飯田卯之吉

遠藤千恵子

小川孟

加藤一郎

小島蓉子

笹沼澄子

鈴木明子

高田玲子

陳慧玉

土屋和夫

松村秩

(以上五十音順、敬称略)

(細田、田村、鹿島)